喫緊の課題と中長期的課題と

校長　浅野　隆

本校の百周年記念誌で「文武両道への決意　平均六十五点が資格」という本校第五代林栄太郎校長の記事を拝読した。『……大正六年十一月、第五代校長・林栄太郎を迎えた。林校長は「一に勉学、二に質素、三に剛健」をかかげ「英数優劣組」の編成を急務とするなど、進学に力をそそいだ。校長は着任の翌年、大正七年新学期早々の四月十日、「運動部選手は学科平均六十五点以上にして主要学科六十点以上の者たるべきこととす」を決めた。勉学第一たるべき運動部選手もまた同様のことであるとし、点数を示してこれを選手資格の第一においた点に大いなる決意のほどがみられる。いわゆる「文武両道」への公式な方針である。林校長は、「余輩の観るところによると、近来の学生はどうも学問の研究に対する本気が足りない。一般に学業に対する誠実が欠けておるように思うが如何であろう。学業は少しでも油断をすれば退歩する。今日の学生の中には遊びがてらに学校へ出てくるものがある。これは全く学生の本領を忘れたものと言わねばならぬ」生徒への苦言と激励は、さらに「切磋琢磨」「反覆習熟」「講習討論」のすすめとなって続き、学術に優れ運動競技に達した学生が知・徳・体いずれにも優秀な〝選士〟であってほしいことを切望している。……』林校長はまた、生徒および教職員の校内生活万般に細かな配慮を示したのであった。……

文武両道なる思想について、多くの人が誤って伝えられた思想にとらわれている。最大の誤解は江戸時代に起こったのだそうで（養老孟司氏の著作による）文は四書五経など書物を読むこと、武は竹刀を持って殴り合いをすること、両方できるのがサムライだ、という誤解です。**本来は両方が分離せずひとつであるということです。「文」を極めるには「武」によって培われた健全な心と体が必要であり、「武」を極めるには「文」によって培われた論理的思考が欠かせないという意味であります。運動や、技術だけ磨いていたとしても上位を目指すことは出来ない。だから、勉強するならきちんと健康的な生活を送り、運動で上位を目指すなら頭も働かせなくてはならない。究極には自分自身がどう生きていくかということでもあり、何を極めるにしろ、どう進路を考えるにしても無駄なものはないということのようです。**

本校の喫緊の課題を整理しますと、

骨太の人材を育てるため、教師として授業力アップのことや、学校としての進路実現力、また校長としてと生徒への感化力・生徒のモチベーションアップに役立つ琴線に触れる話力などを如何にして高めるかがまずあります。次に、例えば部活動等に三年間励み続け苦学してW大学に入った生徒と、ただ普通にK大学に入った生徒とでは感動はどちらにあるかということの価値観共有、学校があたかも一つの生命体・有機体かのように躍動する姿を如何にして世間に目に見える形で示すかという宣伝力もあります。世の中の動きに呼応しつつ現状に甘んじることなく、世界で活躍する人材の育成のために学校のあり方について、足腰を鍛え直すことを含め何か方策はないかということの模索も。また『小説上杉鷹山』風にいえば、社会状況の変化で、学校に何がもとめられているのかを知り、そのニーズに応えるには、いまの教育目標や学校組織や教職員の意識がそれでいいのかどうかを反省し、その現状をどう改革していくかということになり、転法輪奏氏の『我が国の問題点は、政治でも経済でも長期的な戦略がみあたらない事だ。未来に対する洞察力も、座標軸も、哲学も欠いたままで、危機に面しているのに火事が消えない。最初から具体論に入るからまとまらない。』に尽きるかと思います。

例えば、x軸にはこの国の進むべき道・あるべき姿・国家像、y軸には我が国の中での生徒の自己実現の方策、z軸には先人の伝統・文化の継承などが考えられます。三次元座標軸を据えて「ひとつひとつの火事」を消していきたいものであります。

またfは、次のような多変数関数であります。学校の活力f＝f（x、y、・、・、・、教員の授業力、授業時数の確保）【授業時数の確保とは『琴線に触れるいい授業』を増やすという意味です。】

更に、本校の現状を踏まえつつ本校に求められる取組について述べますと、地区では進学校と目され、生徒は纏まっていて礼儀正しく元気もあり、挨拶がよく（この挨拶がいいというのは、伊達ではありません）、進学校にありがちな『それ』ている生徒も見かけない。そういうよい現状に文武両道をシステムとしてちゃんと両立できるよう更に整備しておいてやることと、欲張って年間最優秀スポーツ校表彰も受け、進路実績も内容がリッパだ、と世間から評価されることこそ本校のひとつの方向ではありますまいか、と思うが柏崎翔洋中等教育学校と本校とがどのように相見えていけばよいのかとも思う。この柏崎翔洋中等教育学校については侮れないどころか過小評価すると怪我をする位な危機感を持ってとらえているところであります。柏崎地区全体からみれば地域力のアップには違いないが。向こうは中学、高校の六年間の教育プログラムを設計できるため、高校受検を気にせずに基礎学力の向上を目指し、独自の体験学習も取り入れられる利点から六年間かけて鍛えに鍛えているわけで一筋縄ではいかない。本校にとってはここが踏ん張りどころで、堪えどころである、というサジェスチョンをいただき、どの組織もそうでしょうけれど、大きな難問を突きつけられているという認識であります。

新教育課程への移行前夜、翔洋のデビュー、などを考えると『本校の足腰は大丈夫』かという帰結になります。校風である文武両道とは何かという根元的な問いかけを念頭におくとき、スクラップ&ビルド、新しく学校をつくるつもりで、すべてのエンジン・システムの見直すいわば大規模改革から、例えばうまく文武両道を両立させている、スポーツの強い他県の進学校の視察などを含め小規模の改革までいろいろ考えられます。

が、もちろん足下が一番大切であり、授業第一主義に徹し、授業を通じて生徒の生活指導をし、授業を通じて文武両道の啓発をし、授業を校務の中心とする学校運営をおしすすめていく。具体的には、理数コースとSSHがうまく機能し普通コースにも波及効果があるようにし、生徒募集の工夫、柏崎翔洋中等教育学校を育てつつ、差別化をはかり、魅力ある学校づくりは魅力ある授業づくり、下手な授業は公害との認識で、県教委の「中学進学時に地元中学か、中高一貫校かの選択肢ができたため、生徒の目的意識を引き出せるようになった。今後、ほかの中学や高校と切磋琢磨していける」の方針を遵守し粛々と事業・学校運営をしてゆきたいと思います。

創立100周年記念事業の実施状況（累計）

（平成22年３月31日見込）

（金額：円）

区　分	執行額	摘　要
1　記念資料室の整備	7,702,331	
● 記念資料の保管・展示	5,819,349	
① 資料のＣＤ化	4,648,791	
「怒涛」「柏高新聞」「記念誌」「校歌」		記念誌等100セット　校歌1,000枚
② 陳列棚	912,833	資料展示用　２台
③ 資料整備費用	100,000	謝礼
④ 柏中旗(旧校旗)補修、校旗入れ	157,725	３旗（額入）、校旗トランク
● インターネット「柏高ホームページ維持・改良」	1,882,982	リニューアル、更新、維持管理
2　柏崎高校振興基金	38,539,837	
● 学力の向上	5,121,432	
① 理科実習用ノートパソコン	1,493,415	11台
② 液晶プロジェクター	1,332,450	１台
③ 図書館のコンピュータ化	1,904,647	管理ソフト、バーコード等
④ 補習用長机、進路指導室机等	390,920	長机14台、作業机２台・椅子
● 部活動の活性化	10,543,467	
① トレーニング機器	3,849,090	エアロバイク３台等
② ピッチングマシン	660,450	１台
③ 吹奏楽部楽器	4,083,500	ティンパニー、ロータリーチューバ、バリトンサックス、クラリネット等
④ 写真部カメラ	126,000	デジタル１眼用２機
⑤ 演劇部スポットライト	157,080	２台
⑥ 文芸部部誌保管棚	16,230	
⑦ グラウンド整地	1,651,117	グラウンド整地工事（残額を全て執行）
● 文化活動の振興	10,069,746	
生徒海外交流事業	10,069,746	オーストラリア研修９回目実施
● 教育環境整備	12,805,192	
① 補習時冷房設備費	5,953,500	電気工事費
② 教員自主研修助成事業	777,152	自主研修、先進校視察研修
③ 百周年モニュメント	3,393,175	
④ 校章、校名版	790,000	
⑤ クーラーレンタル代	774,480	職員室用
⑥ その他	1,116,885	大体舞台諸幕取替、樹木剪定
3　雑　費	91,592	事務用品、振込料等
合　計	46,333,760	